1996年SPring-8利用計画調査報告書について

利用幹事からSG代表者に対して10月６日付けで「1996年SPring-8利用計画調査報告書」について、次のような依頼を致しました。報告書の原稿の体裁や内容の詳しいことなどについては、11月下旬にSG代表者に直接連絡しますのでよろしくお願い致します。

１９９６年SPring-8 利用計画調査報告書について

利用幹事　下村理　村田隆紀　渡辺巌

平素は懇談会活動へのご協力をいただき、ありがとうございます。

早くも1996年の英文報告書の編集準備をする時期になりました。今年度は１０本のビームラインの建設もスタートし、２３のSGの提案が相乗りの形で実験ステーション建設が始まりました。

このような事態の急激な進展のもとで、今年度の英文報告書の体裁も昨年とは大幅に変更する必要が生じました。利用幹事は共同チームと財団関係者と相談を重ねた結果、1996年の報告書の体裁を次のようにすることに決定いたしました。

１．Introduction

報告書の内容についての紹介と、建設の決まったビームラインの名称と位置についての情報を掲載する。（利用幹事が執筆）

２．Beamline Reports A (Construction)

１０本のビームラインをビームライン毎に紹介する。

a) 光源とビームラインの仕様。（共同チームの担当者が執筆）

b) そのビームラインで計画されている研究内容の紹介。（SGからの報告）

３．Beamline Reports B (Proposal, Plan, Idea)

計画中の研究の内容について、SGからの報告を掲載。

昨年の報告書でB, C, D に分類したものを、一括して扱う。

このように、実験ステーションの建設の決まったSGからは、そのステーションの仕様と実験計画をなるだけ具体的に報告していただくことになります。原稿のスタイルについては、いずれ改めて各SGにお知らせいたしますが、６～１０ページ程度にまとめていただくことを考えています。

なおこれまでの経験から、報告書をまとめる作業に予想以上の時間がかかることがわかりました。報告書を会計年度内に発行するために、締め切りは

１９９６年1月３１日（水）

とさせていただきます。

ご承知のことと思いますが、この報告書はSG活動に対する共同チーム・財団からの活動支援に応えるために、SGに執筆をお願いしているものです。昨年の報告書は1000部印刷し、利用者懇談会のSG登録メンバーと、共同チームを主体にした理研・原研の関係者をはじめ、国外の主要な放射光施設とSPring-8のポテンシャルユーザーに配布し、日本におけるSPring-8利用研究について世界に情報発信する役割を果たしています。このことをご理解の上、ご協力をお願いする次第です。よろしくお願いいたします。